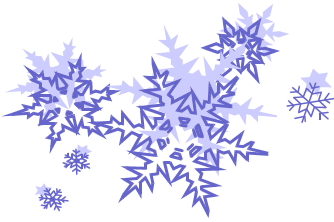


説教要旨「天の国がやってくる」



マタイによる福音書4章12～17節

イエス様はガリラヤから宣教を始められました。預言者イザヤの時代、ガリラヤは大国アッシリアによって蹂躪されました。ですからイザヤは、この地に住む人々のことを「闇の中を歩む民」、そして「死の陰の地に住む」人々と呼びました。しかし、イザヤは、そのような悲惨な状況にある人々が「大きな光を見る」と告げるのです。マタイが引用したイザヤの言葉の続き、イザヤ書9章5節にはこの“光”についてこのように語られています。

「ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれました。ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は、『驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君』と唱えられる。」

イエス様は、このイザヤの預言の成就する方として来られました。だから、イエス様の宣教はガリラヤから始められなければならなかったのです。

イザヤが告げた預言は、イエス様の時代よりも700年も前のものです。アッシリアの後にはバビロニア、ペルシャ、そしてマケドニア、ローマと続く異邦人の支配の下、700年もの間「闇の中」を歩み続けたガリラヤに、その闇を照らす大きな光としてイエス様は来られ、「悔い改めよ。天の国は近づいた。」そうやって人々を招かれました。

イエス様の告げる「天の国=神の国」は、私たち人間の側が努力して辿り着くところではありません。生きている間に善行を積んだ者が、死んで辿り着ける死後の世界ではないのです。天の国の方が、私たちのところへと近づいてくるのです。そして、そこに入るようにイエス様が招いてくださるのです。この近づいてくる神の国に誰もが入ることが出来るように、神様と私たちとを隔てる罪の壁を、十字架に架かることによって壊してくださったのです。

天の国、神の国は、もうここに来ています。イエス様がおられる所、イエス様と共に歩もうとするところ。そこに天の国、神の国は来ているのです。神の国の門はすでに開かれています。このイエス様の招きに応じて、悔い改め、神に立ち帰る者として、新しい一週へと歩みだして参りましょう。